県産業廃棄物協会大隅支部総会

新支部長に久木田氏

久木田 英継新支部長

県産業廃棄物協会大隅支部（松迫松雄支部長・会員23人）の18年度通常総会がこのほど、鹿屋市のホテルさつき苑であり、17年度収支決算報告、18年度事業計画および収支予算を承認した。任期満了に伴う役員改選では、新支部長に久木田英継氏（㈱プライドエコノス社長）を選出した。

久木田氏は就任にあたり「産業廃棄物協会はプロフェッショナルな産業廃棄物処理業者により構成されている団体で、さまざまな活動に取り組んでいます。わたしたちはプロとして法令、実務に精通するよう研さんを積み、資質の向上に努めるとともに、社会の理解と信頼を高めるように努めなければならない」と挨拶、会員に一層の研さんと結束を呼び掛けた。このあと三谷純夫県産業廃棄物協会長が「県廃棄物処理計画の概要」などについて講話した。

18年度事業計画は、適正処理推進事業、協会および支部への加入PR活動の推進。不法投棄防止パトロールの実施、監視指導員との情報交換および連携の緊密化、鹿屋市の要望に応え鹿屋市霧島ケ丘公園付近の不法投棄物の回収作業を行うことや要望活動、各種勉強会の開催肝属川クリーン作戦に参加など。

新役員は次の通り。

支部長＝久木田英継▽副支部長＝古里盛吉（㈱花岡建設）下茂政美（㈲下茂砕石）▽理事＝松園修二（㈲松園商事）福岡周一（鹿屋山坂運送㈲）新屋浩一（丸紅塵芥清掃㈲）▽監事＝伊東計（鹿屋砕石㈱）木崎隆治（㈱NIPPOコーポレーション鹿屋合材工場）

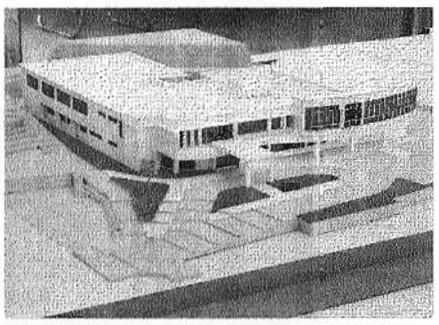
連携の緊密化などを確認した総会
＝鹿屋市のホテルさつき苑で

高齢者福祉C吉野等新築 安全祈願祭

工事の無事完成祈る

鹿児島市発注の高齢者福祉センター吉野・北部保健センター（仮称）新築工事安全祈願祭は16日、同市の現地で開かれ、関係者約100人が出席して工事の順調な進捗と安全を祈った。

杭打ちの儀を行う川井田代表取締役ら＝鹿児島市の現地で



高齢者福祉センター吉野・北部保健センター（仮称）の完成予想模型＝設計・堂園設計

神事では、地鎮の儀で苅初めの儀を門松信久堂園設計㈱代表取締役、鍬入れの儀を森博幸鹿児島市長、杭打ちの儀を川井田健一㈱新生組代表取締役、大塚勝久大塚建設㈱代表取締役、古川公人㈲古川工建取締役会長が力強く行った。また、森市長、赤崎正剛鹿児島市議会議長らが神前に玉ぐしを捧げて工期内の無事完成を祈念した。

直会では、森市長が「市内で5カ所目となる保健センターは市民の健康づくりの拠点として、また、高齢者福祉センターは高齢者の生きがいづくりや交流の場として、地域に愛され、末永く活用されることを願う」と挨拶。施工者を代表し川井田代表取締役は「時代の要請であるこの建物を建築できることは誇らしい。われわれは技術力を結集し、安全・品質・工程管理を徹底して、竣工を迎えたい」と述べた。

建設地は吉野町の吉野支所隣接地。建物規模はRC造2階建延べ3552・11㎡で、1階に保健センター、2階に高齢者福祉センターが入る。工期は19年7月31日までで、10月からの供用開始を目指す。

施工業者等は次の通り。

本体工＝㈱新生組・大塚建設㈱・㈲古川工建JV▽給排水衛生設備＝山口設備㈱▽空気調和設備＝㈱朝日冷機工業所▽浄化槽設備＝旭機工㈱▽設計＝堂園設計㈱▽設備設計＝㈱歴史設備事務所

尾堂社長

焼酎粕の有効利用を

鹿大焼酎学講座シンポジウム

第1回鹿児島大学焼酎学講座シンポジウム「再生する焼酎粕」が11日、鹿児島市の同大学稲盛会館で開かれた。その中で総合討論「焼酎粕の有効活用に向けて～産学官の役割と機能」には、尾堂友紀氏（鹿児島共和コンクリート工業㈱社長）がパネリストで出席し、焼酎粕コンクリートの利用拡大などを訴えた。

焼酎粕の有効利用が拡大するのでは――と述べる尾堂社長＝鹿児島市の鹿児島大学稲盛会館で

総合討論のコーディネーターは原口泉鹿大生涯学習教育研究センター長、パネリストは尾堂社長、木場信人県観光交流局かごしまPR課主幹、鮫島吉廣薩摩酒造㈱常務、髙峯和則鹿大農学部寄附講座焼酎学講座助教授が務めた。

尾堂社長は、焼酎粕を用いたコンクリート施工について、「その有効性が認められれば現在進めている2次製品だけでなく、現場で打設する港湾・海岸構造物などにも焼酎粕の有効利用が広がると思う。また、海の生物への有効性が認められ、川の生き物・緑化等への有効性も認められれば、さらに用途が広がるではないか」と述べた。さらに大学機関の協力を得て配合設計等のマニュアル的なものができていけばとした上で、シラス焼酎粕コンクリートを提案できるのではと思っているなどと語った。

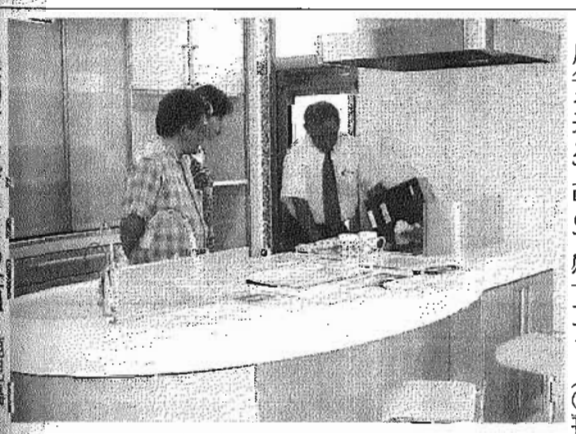
秀建がモデルハウス完成見学会

70組の来場者で盛況

㈲秀建（樋高秀哉社長、鹿児島市）は12日、鹿児島市喜入町で「モデルハウス完成見学会」を開き、早朝から地元の住民をはじめお盆休暇で帰省した大勢の来場者で賑わった。

今回は、同社が掲げる「住む人々が、喜び安心して住める家」をコンセプトに、南側に面した部分には大小の窓のほか、室内にも吹き抜けを設けることで、十分な採光を取り入れられるようにしているほか、システムキッチンをはじめ、システムバス、断熱樹脂サッシ、光触媒ガラスやノンレールサッシの採用により住む人がストレスを感じさせない造りのほか、外部侵入者から家を守るために、指紋やパスワード入力機能も搭載したセキュリティーシステムも完備するなど、安全性にも配慮している。

今回の見学会を終えて樋高社長は「今年、創業5周年を迎えて改めて感じたのは、お客様の視点に立ったプレゼンテーションを追求することこそ、良い家造りの基本であるということ。弊社のコンセプト（①喜・家族の喜び②木・強い木③季・四季の移ろいを感じる④帰・帰りたくなる）である、住む人々が毎日喜んで住める家を提供するために、これからも社員一丸となって取り組んでいきたい」と抱負を述べた。



来場者に説明をする社員＝鹿児島市喜入町の見学会場で

白川田社長

工事現場にカラフル風車

ペットボトルで製作

白川田工務店

18年7月北部豪雨で被災したさつま町。瓦礫（がれき）の撤去も進み、家屋の復旧も始まった。真夏の青空は何とまぶしいもの。国道504号の工事現場。片側規制の信号機に風車（かざぐるま）が風に吹かれて回っている。工事看板の上にもあった。

実は製作したのが㈱白川田工務店の白川田廣八社長。県建設業協会宮之城支部長として災害復旧の先頭で指揮してきた。災害前から一人でこつこつ作ってきた。

最初は事務所入り口前の道路に5本飾って道行く人の目を引くだけだった。カラフルで人の目を楽しませ、また風を受けよく回る。時々盗まれるそうだ。素材はペットボトル。裁断から色づけまで一人で仕上げる。「作り方を教えて」と近所の人が訪ねてくる。評判もいい。

そこで、ぎすぎすした「工事現場に遊び心を」と先の現場にも採用した次第。「信号待ちしている人のイライラが少しでも解消できれば」。そんな思いからだ。

薩摩道路17－17工区の現場には大掛かりなものを取り付けた。縦3列×横7列の21個の風車が一斉に風に吹かれて回る。「21個にしたのは21世紀の意味を込めて。これからどんな風が私どもに吹くのか。21番目の風車は無色にしたかったのですが。わたしどもの世界にどんな色が似合うのか、まだ決められないでいます」。回る風車を見て近所の人が不思議そうに寄ってくる。「現場と地域との交流の場にもなっているようです」。

さて、今年はさつま町にどんな風が吹くのか。

工事事務所上に取り付けた21個の風車＝さつま町の薩摩道路で